令和三年度版『新しい書写』

人と文化を育む

文字文化に触れる

「文字のいずみ」と「書き初めをしよう」

豊かな文字文化に触れることで、文字を手で書くことの価値や楽しさを知り、主体的に文字を使おうとする心を育てる、それは「新しい書写」を通底するテーマの一つです。文字文化に特化したコラム「文字のいずみ」と、伝統文化を体験する「書き初めをしよう」を各学年に設けました。

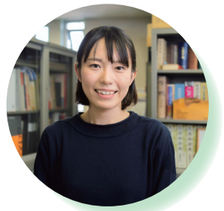
一年	二年	三年
◆仮名の起こりと字源（P17）◆いろは歌（P19）◆速く書きやすい書き方（P23） ◆手紙の書き方（P27）◆文字の成り立ちと移り変わり（P28～29） ◆筆脈（P31）◆伝統的な用具・用材（P40～41）◆書き初めをしよう（P44・P97～100） ◆書き初め（P44）◆書いて味わおう「竹取物語」（P48）	◆字源と平仮名（P59）◆文字と絵（P61）◆手書き文字と活字（P72～73） ◆書き初めをしよう（P74・P101～104）◆書き初めの広まり（P74） ◆明朝体の始まり（P73）◆書いて味わおう「平家物語」（P78）	◆仕事の中の手書き文字（P84～85）◆書き初めをしよう（P90・P105～106） ◆書き初めとどんど焼き（P90）◆古典をもとに（P94～95）◆高校生の活躍（P95） ◆書いて味わおう「おくのほそ道（P96）◆二十四節気と季節の挨拶（P109～112） ◆書くことを楽しむ　日本の文字文化、世界の文字文化（裏表紙裏）

書写におけるキャリア教育

手で文字を書く力は、学校生活の中だけではなく、社会に出てからも必要です。キャリア教育の観点から、生徒が社会や自分の将来とのつながりを感じて学習に取り組めるよう、さまざまな世界で活躍されている四人の方に、仕事の中で使う手書き文字についてインタビューを行いました。

書店員

活字デザイナー

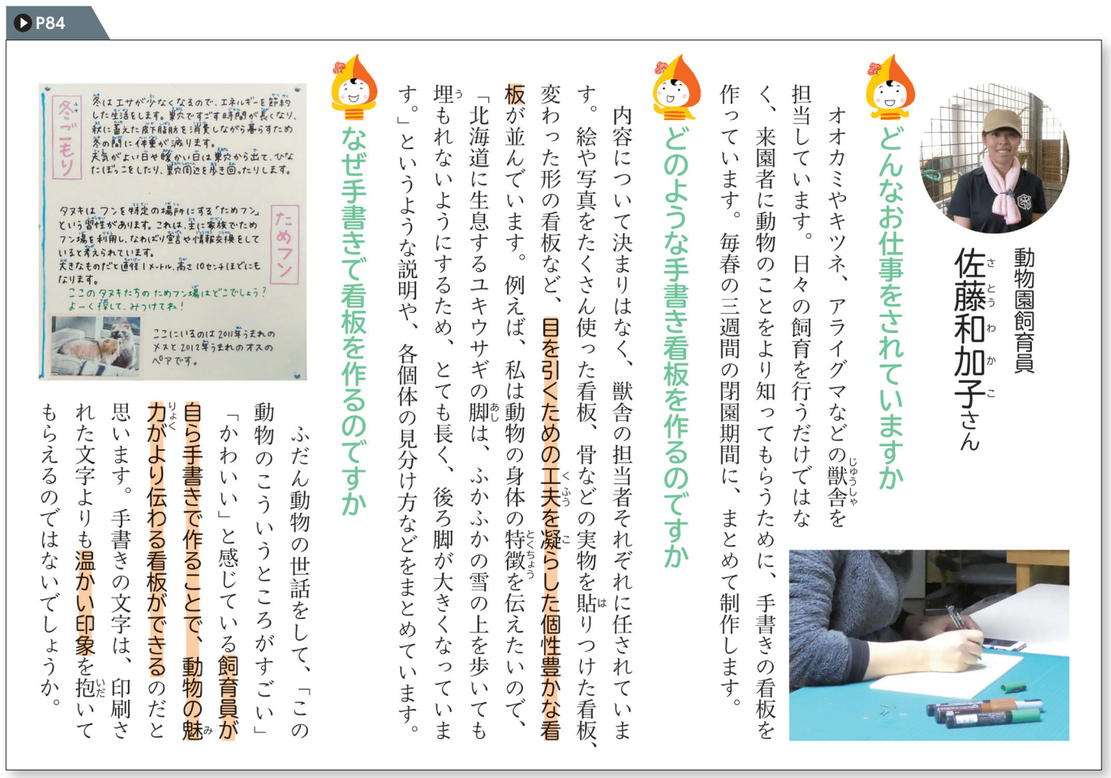


動物園飼育員

寄席文字書家

未来の自分の姿を想像する

書写で学んだことを将来活用している姿をイメージさせるさまざまな工夫をしています。これからの学校生活だけではなく、社会に出てからの自分の姿を想像することで、書写の学びに主体的に向かう力を育みます。



動物園飼育員

佐藤和加子さん

どんなお仕事をされていますか

オオカミやキツネ、アライグマなどの獣舎を担当しています。日々の飼育を行うだけではなく、来園者に動物のことをより知ってもらうために、手書きの看板を作っています。毎春の三週間の閉園期間に、まとめて制作します。

どのような手書き看板を作るのですか

内容について決まりはなく、獣舎の担当者それぞれに任されています。絵や写真をたくさん使った看板、骨などの実物を貼りつけた看板、変わった形の看板など、目を引くための工夫を凝らした個性豊かな看板が並んでいます。例えば、私は動物の身体の特徴を伝えたいので、「北海道に生息するユキウサギの脚は、ふかふかの雪の上を歩いても埋もれないようにするため、とても長く、後ろ脚が大きくなっています。」というような説明や、各個体の見分け方などをまとめています。

なぜ手書きで看板を作るのですか

ふだん動物の世話をして、「この動物のこういうところがすごい」「かわいい」と感じている飼育員が自ら手書きで作ることで、動物の魅力がより伝わる看板ができるのだと思います。手書きの文字は、印刷された文字よりも温かい印象を抱いてもらえるのではないでしょうか。

東京書籍
〒114-8524　東京都北区堀船2-17-1　Tel: 03-5390-7358（書写編集）

この資料は，令和３年度中学校教科書の内容解説資料として，
一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。